

〔槐記〕享保十一年正月廿五日、參候、近日ハレナル夜茶湯ニ參ルコトアリ、然ドモ御流ノ茶主ニテ
 コレナク、客ニナリテノ致シヤウ、心得ナキコトニヤトウカマフ、仰ニ○近衛家照サシテ別ノコトハ
 ナケレドモ、今ハ昔ノヤウニハ大ニ替リタルコトアリ、第一ノ心得ニハ、外ヨリ見入タルトキ、數
 寄屋ノ窓障子ノ明リノトリヤウニ氣ヲ付テ見ベシ、此亭主ノ上手下手ノ大イニ見ユルコトナ
 リ、窓ゴトニ必ズ、掛戸ハアルコトナレドモ、是非ニ一方ハ明ルコトナリ、コレヲイキダシト云、上
 ノ窓ヲ明ルコトモアリ、下ノ窓ヲ明ルコトモアリ、月夜ト暗トノ違モアリ、月ノサシ込處ナドヘ、
 燈ノ明ニミユルヤウニスルコトハ、大ニアヤマリ也、前カド宗巴ニ、夜ノ茶ヲ仰付ラレシトキハ、
 窓ゴトノ戸ヲ殘ラズ掛タリ、譯コソアルラメト仰ラル、手燭ヲモ今ハトモシナガラ障子ノ外ニ
 捨置テ、勝手ヨリ取ルヤウニスルコトハ、先第一ノ不用心ナリ、風ナドアル夜ハアブナキコト也、
 露地ニヨリテ、アシク戸ヲシメテ入ガタキ處モアルベシ、古ヘ常修院殿○慈胤法親王ナドハ、究テ戸ノ
 外ニテ、下客ノ手水ツカヒ仕廻ヲ待テ、燭ヲ持テ御入アリテ、掛物ナドソノ燭ニテ見マハシ、下客
 ソノ手燭ヲ亭主ノ出テトリヨキ處ニ直シオキテ、火ヲ消スベカラズ、十二年三月廿一日、參候、
 夜ノ茶ハ、晝ノ茶トハ各別、何トカアシライアルコトニヤト窺フ、仰ニ、サマデカワリハナシ、今ノ
 ヲ見レバ全ク同ジ、只燈籠ノ火ノカゲント、手水鉢ニヌキスヲカケテ置コト、手燭ノアシライ
 ナリ、手燭ナシニ庭アカリ、ニジリアガリ、ソレトシラセノ燈ノ影、コレ一ツナリ、客モヌキスヲ半
 分アケテ手水ツカフベシ、アトヲ又カケテ置コトナリ、今ハヌキスノ沙汰ナシ、前カドノ御嚙ニ、
 チマチアハセテ、内ロシクラカラヌヤウニシテ、内ヘ入テモシナチアハセ、手燭ヲ入サセテ、床ノカ
 ケモノモ、カハリ、ニ見テ、下座ノ人、勝手口ヘ手燭ヲトモシナチアハセ、柄ノ方ヲ前ニシテ直シカ
 ク、今ノ人ハ外ニテホシチク、風ナドノ吹カ、夜ノ茶ニ、前ニ薄茶ヲ立ルコト、必シモト云コト
 若客ガ申シメレバ危キコトナリ、○中略ニアラズ、御前○近衛家照ナドハ、終ニ其式ニ御アイナサレヌコト其筈ナリ、イツモ夕御膳後ナド、フ
 ト催サレテ、迎ノコトニ、夜食ハ圍居ニテトアルヤウナコトモ、是非御相客トモニ揃ハセラレテ